

バンダイこどもアンケートレポート Vol.257 「小学生の宿題に関する意識調査」結果

- TOPIC①: 毎日宿題がある小学生は **83.8%** !
好きな宿題と嫌いな宿題は、共に1位「算数の宿題」、2位「漢字の宿題」、3位「教科書の音読」。
男子は算数好き、女子は国語好きが多く、対照的な結果に。
- TOPIC②: 「**自宅のリビング・ダイニング**」で宿題に取り組む小学生は約7割。
学年が上がるにつれ、男子は「**自宅のリビング・ダイニング**」、女子は「**自分の部屋**」が増える傾向に!
- TOPIC③: 子どもの宿題をサポートしているのは、どの教科でも「**母親**」が1位。
「宿題についての相談(算数)」では、他の教科に比べて**父親の割合が増える**結果に。
過半数の親が「宿題は子どもの自主性に任せている」と回答。

総括 : バンダイからのコメント

株式会社バンダイ(本社:東京都台東区、代表取締役社長:川口勝)は、小学生の「宿題」に関する実態を探るため、小学1年生~6年生の子どもを持つ親*600人を対象に、「小学生の宿題に関する意識調査」を実施しました。調査結果を以下の通り発表いたします。

<実査期間2019年12月6日(金)~9日(月)> ※子どもと一緒に回答できる方

- TOPIC①: 毎日宿題がある小学生は **83.8%** !
好きな宿題と嫌いな宿題は、共に1位「算数の宿題」、2位「漢字の宿題」、3位「教科書の音読」。
男子は算数好き、女子は国語好きが多く、対照的な結果に。

【小学生が好きな宿題・嫌いな宿題】(単一回答 n=600)

小学生総合TOP5					
好きな宿題			嫌いな宿題		
1位	算数の問題やプリント/算数ドリル	24.7%	1位	算数の問題やプリント/算数ドリル	22.5%
2位	漢字練習や書き取り/漢字ドリル	15.5%	2位	漢字練習や書き取り/漢字ドリル	20.3%
3位	教科書の音読	15.3%	3位	教科書の音読	12.3%
4位	なわとびなど体育の授業に関する練習	5.5%	4位	日記	8.7%
5位	楽器の練習	5.2%	5位	調べ物	3.8%
	特になし	24.0%		特になし	23.0%

好きな宿題 男女別TOP3				嫌いな宿題 男女別TOP3				
男子		女子		男子		女子		
1位	算数の問題やプリント/算数ドリル	33.3%	1位	教科書の音読	19.7%	1位	算数の問題やプリント/算数ドリル	28.0%
2位	漢字練習や書き取り/漢字ドリル	13.0%	2位	漢字練習や書き取り/漢字ドリル	18.0%	2位	漢字練習や書き取り/漢字ドリル	18.0%
3位	教科書の音読	11.0%	3位	算数の問題やプリント/算数ドリル	16.0%	3位	教科書の音読	9.0%

小学生に宿題の有無について聞いたところ、83.8%が「毎日宿題がある」、16.2%が「毎日ではないが宿題がある」と回答し、「宿題はない」と回答した子どもは0%という結果になりました。

また、小学生に好きな宿題・嫌いな宿題を聞いたところ、総合TOP3は好きな宿題・嫌いな宿題共に1位「算数の問題やプリント/算数ドリル」(好きな宿題:24.7%、嫌いな宿題:22.5%)、2位「漢字練習や書き取り/漢字ドリル」(好きな宿題:15.5%、嫌いな宿題:20.3%)、3位「教科書の音読」(好きな宿題:15.3%、嫌いな宿題:12.3%)となりました。

男女別で見ると、「算数の問題やプリント/算数ドリル」を「好き」と回答した男子は33.3%、女子は16.0%と男女で2倍以上の差が見られました。一方「教科書の音読」では、「好き」と回答した男子は11.0%、女子は19.7%、そして「漢字練習や書き取り/漢字ドリル」では、「好き」と回答した男子は13.0%、女子は18.0%となり、2019年にバンダイが行った「小中学生の勉強に関する意識調査」における「好きな教科・嫌いな教科」(5頁参考データ①参照)に引き続き、男子は算数が好きな子が多く、女子は国語が好きな子が多い傾向にあることが分かりました。ちなみに、好きな宿題・嫌いな宿題共に「特になし」という回答が20%を越えていることから、子ども達が宿題を日課として捉えている様子が推察されます。

【親が子どもに取り組みさせるのに苦労する宿題】(単一回答 n=600)

親が子どもに取り組みさせるのに苦労する宿題 TOP3		
1位	算数の問題やプリント /算数ドリル	15.8%
2位	漢字練習や書き取り /漢字ドリル	11.8%
3位	日記	9.5%
	特になし	35.2%

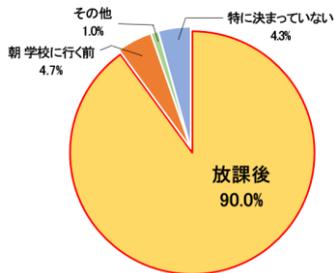
また、親に「子どもに取り組みさせるのに苦労する宿題」について聞いたところ、1位「算数の問題やプリント/算数ドリル」(15.8%)、2位「漢字練習や書き取り/漢字ドリル」(11.8%)となり、小学生の嫌いな宿題の1位・2位と同じという結果になりました。さらに、3位には「日記」(9.5%)がランクインし、継続して取り組ませなければならないものが多いため、苦労している親が多いのではないかと推察されます。また、学年が上がるにつれて「特になし」という回答が増える傾向にあり(5頁参考データ②参照)、高学年になるにつれ親に言われなくても自主的に宿題に取り組む子どもが増えることが分かりました。

TOPIC②: 「自宅のリビング・ダイニング」で宿題に取り組む小学生は約7割。

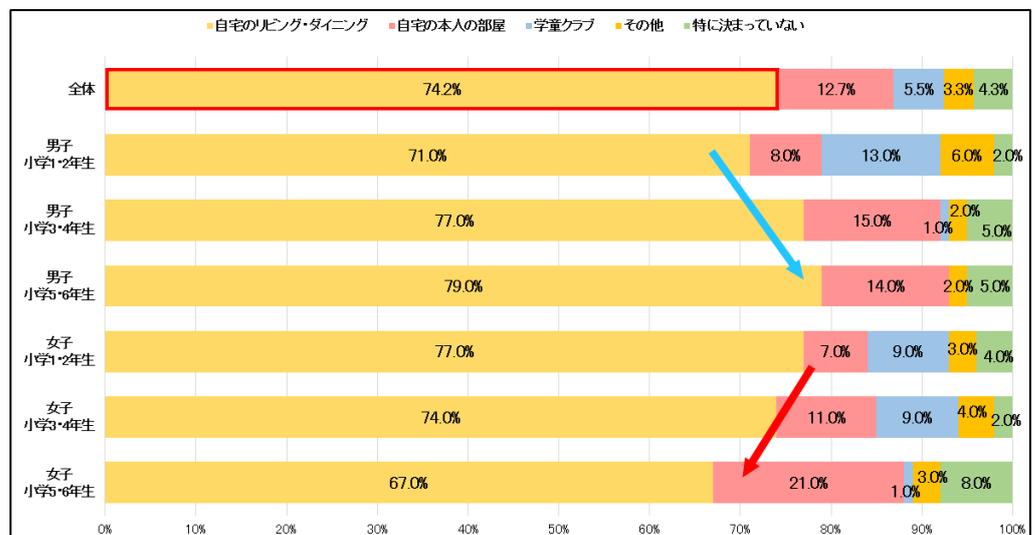
学年が上がるにつれ、男子は「自宅のリビング・ダイニング」、女子は「自分の部屋」が増える傾向に!

【宿題に取り組む時間帯】

(単一回答 n=600)



【宿題に取り組む場所】(単一回答 n=600)

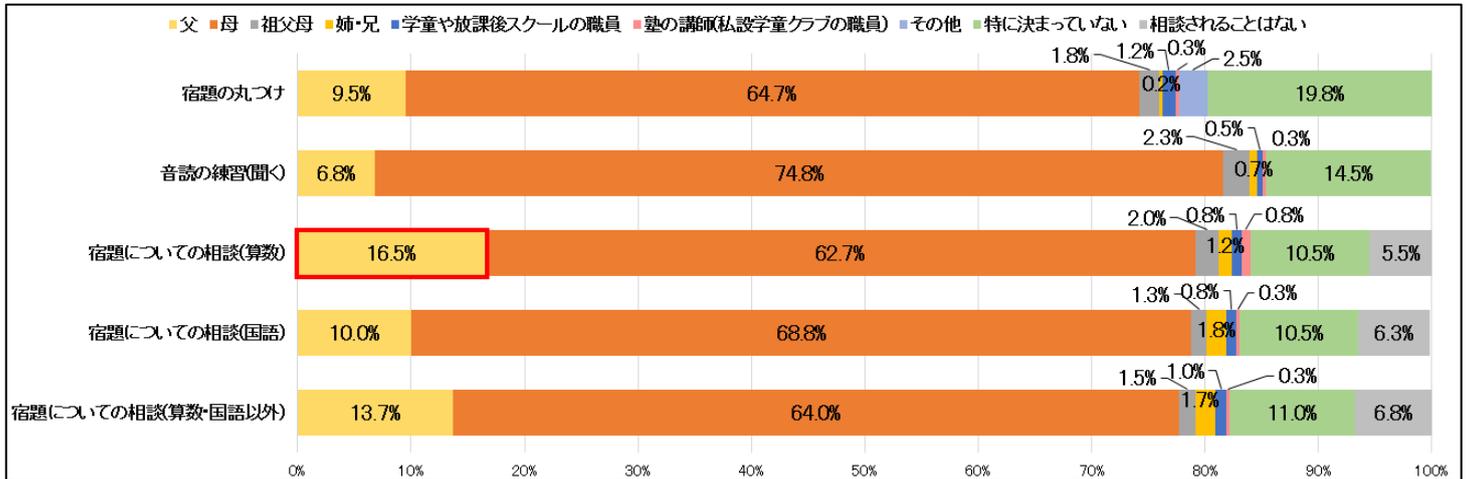


小学生に宿題に取り組む時間帯を聞いたところ、9割が「放課後」と回答し、「朝 学校に行く前」に宿題をする子どもは4.7%で、ごく少数となりました。また、宿題に取り組む場所について聞いたところ、74.2%が「自宅のリビング・ダイニング」と回答し、2位の「自宅の本人の部屋」(12.7%)に大差をつける結果になりました。「自宅のリビング・ダイニング」は、2016年にバンダイが行った「小中学生の勉強に関する意識調査」における「普段、学校以外で勉強している場所」(5頁参考データ③参照)でも1位となっており、多くの小学生が宿題やその他の勉強を「自宅のリビング・ダイニング」で取り組んでいることが分かりました。

男子は学年が上がるにつれて「自宅のリビング・ダイニング」の割合が増える一方、女子は「自宅のリビング・ダイニング」の割合が減り、「自宅の本人の部屋」が増えることが判明。好きな宿題・嫌いな宿題に続き、勉強場所でも男女の違いが見える結果になりました。

TOPIC③: 子どもの宿題をサポートしているのは、どの教科でも「母親」が1位。
 「宿題についての相談(算数)」では、他の教科に比べて父親の割合が増える結果に。
 過半数の親が宿題は子どもの自主性に任せていると回答。

【教科別 宿題の相談相手】(単一回答 n=600)



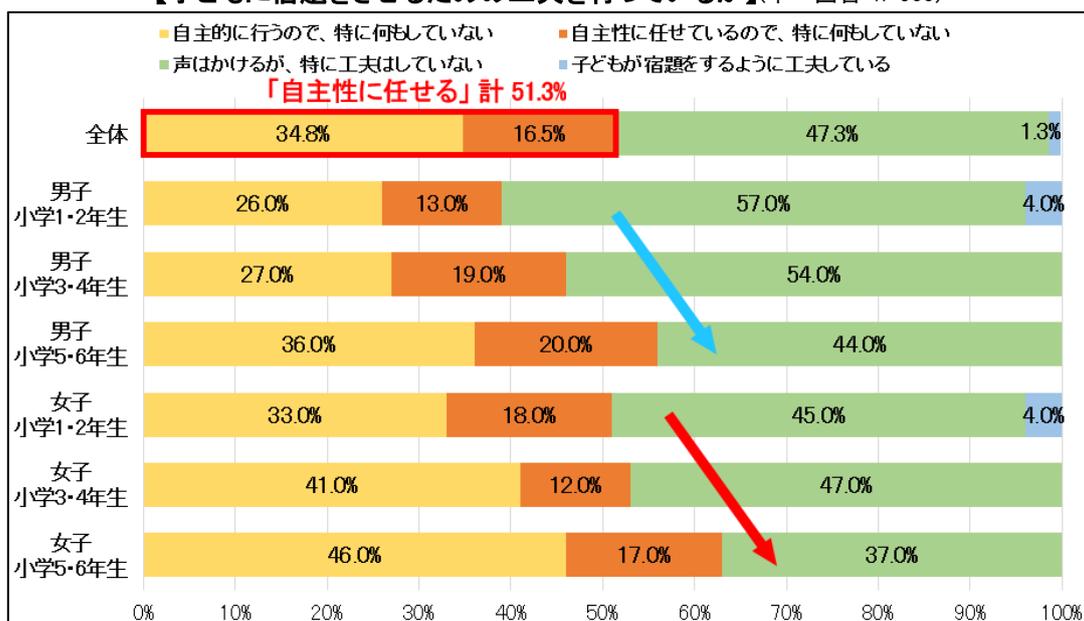
【親が考える宿題の意義 TOP3】(複数回答 n=600)

【子どもの男女別 親が考える宿題の意義】(複数回答 n=600)

親が考える宿題の意義 TOP3		
1位	勉強する習慣を身につけさせる	46.7%
2位	授業を理解しているか確認できる	36.3%
3位	学校で学んだことを身につけさせる	34.3%
	特に宿題の意義を感じない	8.5%

子どもの男女別 親が考える宿題の意義TOP3					
男子		女子			
1位	勉強する習慣を身につけさせる	51.7%	1位	勉強する習慣を身につけさせる	41.7%
2位	授業を理解しているか確認できる	40.0%	2位	授業を理解しているか確認できる	32.7%
3位	やるべきことを期日内に実行する習慣をつけさせる	38.7%	3位	学校で学んだことを身につけさせる	32.0%
	特に宿題の意義を感じない	5.7%		特に宿題の意義を感じない	11.3%

【子どもに宿題をさせるための工夫を行っているか】(単一回答 n=600)



小学生に「宿題の相談相手」について聞いたところ、どの教科でも1位「母親」、2位「父親」となりました。父親に関しては、「宿題についての相談(算数)」の割合がその他の教科と比べて高くなっており、好きな教科・嫌いな教科でも見られたように、男性の方が、算数が得意な傾向があることが推察されます。

また、親が考える宿題の意義としては、男女とも「勉強する習慣を身につけさせる」(46.7%)が最も多くなりました。その中でも男の子を持つ親では、3位に「やるべきことを期日内に実行する習慣をつけさせる」(38.7%)がランクインするなど、女の子を持つ親よりも習慣を身につけさせることに意義を感じている親が多い傾向がうかがえました。また、「特に宿題の意義を感じない」と回答した親は、男の子を持つ親が5.7%、女の子を持つ親が11.3%となり、男の子を持つ親の方が宿題に対して何かしらの意義を感じていることが分かりました。

子どもに宿題をさせるための工夫について親に聞いたところ、「自主的に行うので、特に何もしていない」が34.8%、「自主性に任せているので、特に何もしていない」が16.5%となり、子どもの自主性に任せている親が過半数となりました。また、「宿題をやるようにと声はかけるが、特に工夫はしていない」という回答が47.3%となり、多くの親が特に何もしていないか、声をかける程度にとどめていることが分かりました。子どもの学齢別で見ると、低学年では「子どもが宿題をするように工夫している」という回答が見られました。具体的には、「帰ってからの行動を子どもに考えさせる」、「やりたいことをさせた後、具体的に何時から宿題をやるか約束する」といったものがありました。学年が上がるにつれて親が声をかける割合は減少し、子どもの自主性に任せる親が増える傾向が見られました。

【バンダイからのコメント】

「宿題」に関する意識調査は今回が初めての実施となります。2016年、2019年と実施してきた「勉強」に関する意識調査と同様に、好きな教科・嫌いな教科では男女の違いが見られました。また、小学生の勉強場所は、2016年の調査から引き続き「自宅のリビング・ダイニング」が非常に多い結果となり、勉強の場所として定着していることがうかがえました。

また、今回の調査では、高学年になるにつれ自主性が身につく、自分で宿題に取り組むようになる、といった傾向が見受けられました。春の入学シーズンを控え、お子さまの「宿題」について不安を感じている親御さんもいらっしゃるかと思いますが、ぜひお子さまの成長を楽しみに春を迎えていただければと思います。

■調査概要

- 【調査目的】 小学生の宿題に関する意識・実態を探る
- 【調査地域】 全国
- 【対象者条件】 小学1年生～6年生の子どもの持つ親
※子どもと一緒に回答できる方
- 【調査手法】 インターネット調査(協力:株式会社クロス・マーケティング)
- 【実査期間】 2019年12月6日(金)～9日(月)
- 【サンプル数】 600人
- 【構成】

	小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生
男子	50人	50人	50人	50人	50人	50人
女子	50人	50人	50人	50人	50人	50人

【参考①】2019年「小中学生の勉強に関する意識調査」

＜小中学生の好きな教科・苦手な教科(複数回答 n=900)＞ ※小学生(n=600)ベースで集計

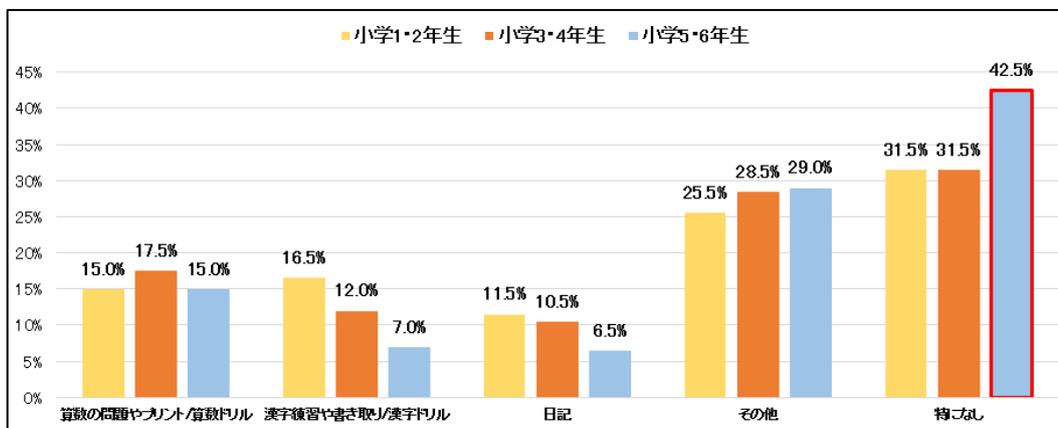
2019年 小学生総合TOP5					
好きな教科			苦手な教科		
1位	算数/数学	27.0%	1位	算数/数学	22.5%
2位	図画工作/美術	22.5%	2位	国語	18.8%
3位	体育/保健体育	21.8%	3位	体育/保健体育	9.8%
4位	国語	19.0%	4位	社会	6.5%
5位	音楽	16.2%	5位	図画工作/美術	5.5%
他	特になし	20.2%	他	特になし	38.0%

好きな教科 男女別TOP3					
男子			女子		
1位	算数/数学	35.3%	1位	図画工作/美術	26.7%
2位	体育/保健体育	27.7%	2位	音楽	25.3%
3位	図画工作/美術	18.3%	3位	国語	24.3%
	特になし	20.7%		特になし	19.7%

苦手な教科 男女別TOP3					
男子			女子		
1位	国語	24.0%	1位	算数/数学	28.0%
2位	算数/数学	17.0%	2位	国語	13.7%
3位	体育/保健体育	7.7%	3位	体育/保健体育	12.0%
	特になし	41.7%		特になし	34.3%

【参考②】2020年「小学生の宿題に関する意識調査」

＜親が子どもに取り組ませるのに苦労する宿題(単一回答 n=600)＞



【参考③】2016年「小中学生の勉強に関する意識調査」

＜普段、学校以外で勉強している場所(単一回答 n=900)＞ ※小学生(n=600)ベースで集計

小学生TOP3		
1位	自宅のリビング・ダイニング	64.2%
2位	自分の部屋	17.7%
3位	塾	3.5%

バンダイ こどもアンケートホームページ: <https://www.bandai.co.jp/kodomo/>

バンダイ公式サイト: <https://www.bandai.co.jp/>